

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら さいたま土呂教室 (児童発達支援)			
○保護者評価実施期間	2025年 10月 16日 ~ 2025年 10月 31 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数)	18
○従業者評価実施期間	2025年 10月 20日 ~ 2025年 11月 10 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数)	10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 28 日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	固定化されないプログラムの提供	5領域に添ってプログラムを立案するが、常勤職員と児童発達支援管理責任者で相談・確認を行い、毎月の会議の場で決めていること。また、長期休み期間においてはパート職員からも子ども達の為に考えたプログラムを提供している。	感覚統合（リズム遊び）の基本的なプログラムをしっかりと行いながらも、子ども達が飽きずに喜んで参加できるような新しい工夫と、SNS等で発信することで保護者の方にも分かりやすいプログラムであること。
2	保護者の方の居場所として、 保護者によるボランティア（さくらそう）の会を継続して行っている。	保護者の方からの要望により、さくらそうの会を継続している。 癲癇の対応等の子育ての悩みを共有したり、アドバイスの場や保護者の方の居場所となっている。	児発・放デイの垣根を越えて保護者同士が気軽におしゃべりできる機会を提供していきたい。今年も放デイの保護者による「就学体験を語る会」を児発の保護者向けに予定している。
3	午後療育（午後こばん）の開始	少々集団療育を行うことで、お子様にあったきめ細やかなプログラムを提供することができる。	療育を必要とされるお子様への支援の場をさらに広げていくこと。 子ども達の『出来た！』という成功体験を増やし成長につなげていくこと。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	インクルーシブの推進	幼稚園・保育園訪問や電話での情報共有で職員間の連携は行っている。しかし子ども同士の関わりはできていないため、地域の幼児、小学生、中学生をごばんはうすに招待してイベントを行っている。保護者の方からの理解と周知が課題。	幼稚園、保育園へのアプローチを進めていき、イベント等で連携できると良い。双方の保護者理解も必要である。 現在行っている『お兄さんお姉さんと遊ぼう』の企画をたくさんの方に知ってもらう。
2	兄弟児との交流の機会を作れると良い。	毎年行っている還元イベントとしては兄弟児の参加も受け入れているが、親子参観や親子遠足では、本児と保護者との関わりを大事にしたいという意図があり兄弟児の参加をご遠慮いただいている。	行事への参加有無のみならず、兄弟児のおしゃべり会を開催して兄弟ならではの悩みや疑問を話す機会を設けることで、気持ちの共有や居場所作りを行う。
3	安全マニュアル等に関して、保護者へより丁寧な周知が必要だった。	5月親子参観にて事業所内での避難訓練と広域避難所への避難を実施した。その後にご契約に至った保護者の方へは、契約時に口頭で避難所の場所等をお伝えしたが、契約時に情報が多く保護者の印象に残らなかったと考えられる。	子ども達は毎月避難訓練を実施しており、保護者の方へも報告している。定期的に親子で避難訓練を行うことも必要。

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら さいたま土呂教室（放課後等デイサービス）			
○保護者評価実施期間	2025年 10月 16日 ~ 2025年 10月 31 日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)	
○従業者評価実施期間	2025年 10月 20日 ~ 2025年 11月 10 日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 28 日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員が決めた活動を行うのではなく、自分で選択する遊びや活動を取り入れている。	心や目、体を休める時間を提供。 ゆっくりタイムではお昼寝、机上にて静かに過ごせる活動（粘土、折り紙、お絵かき、パズル、読書等）を選択してもらう。自分で決める機会を作り、余暇をどう過ごすか、“自分で考え”“決める”経験を積み重ねる。	静かに過ごせるものの種類を増やす。机上で集中して出来る自立課題を増やしていく。子どもたちが分かりやすい、始めと終わりが分かる落ち着いて出来る課題。「できた！！」を積み重ねられるもの。
2	保護者の方の居場所として、 保護者によるボランティア（さくらそう）の会を継続して行っている。	保護者の方からの要望により、さくらそうの会を継続している。 癪癪の対応等の子育ての悩みを共有したり、アドバイスの場や保護者の方の居場所となっている。	児発・放ディの垣根を越えて保護者同士が気軽におしゃべりできる機会を提供していきたい。今年も放ディの保護者による「就学体験を語る会」を児発の保護者向けに予定している。 保護者が少しでも気を抜ける場所、時間となるよう引き続きリラックスタイムも提供したい。
3	将来に向けた、小集団プログラムの実施 (支援級高学年女子クラス：ひまわり) (支援級高学年男子クラス：はやぶさ)	通常療育の時間でやっていることをもっと少人数で行い、現実的に役に立つようなことの実施。（人との郷里感、男女の体の仕組み、子どもたちだけでのクッキング、公共交通機関を使って外出等）自分たちで考えて実施できるような取り組みを提供している。	自分や相手を知ること、理解することで、余暇活動の充実を図る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	兄弟児や地域との交流の機会を作れると良い。	年に一度の還元イベントとしては兄弟児の参加も受け入れているが、それ以外はなかなか集まる機会の提供はない。	保護者のおしゃべり会を実施しているので、兄弟児とこばんはうすに通っている児童での兄弟で楽しめる活動を増やしていく必要があると感じた。兄弟ならではの悩みや疑問を話す機会を設けることで、気持ちの共有や居場所作りを行う。
2	保護者交えてのイベント等が少ないため、児発と比べて比較的コミュニケーション機会が少ない。	こばんはうすでの保護者含めたイベント実施を検討したが、人数が集まらず中止となった。 保護者の需要、情報を収集しきれていないと感じた。	家族揃ってお出掛け、カラオケ大会、定期的に実施し、まずは少人数でも関わる機会を提供し続けることで、広がっていくと思う。
3			